

部会まとめ作成に関する意見交換の実施結果について

< 1回目 >

- 1 日 時：令和7年5月28日（水）18:30～19:30
- 2 実施方法：ウェブ会議
- 3 出席者：部会員7名※ ※途中退出、途中参加あり
- 4 概 要：

事務局よりこれまでに作成された部会まとめの概要等を説明した。その後、鈴木部会長より部会まとめ（部会長案）を説明し、意見交換を行った。

< 部会員の主な意見等 >

- ・ 有意な関係が見られたコホート内症例対照研究の甲状腺検査で発見された症例のみの浜通りに地域を限定した解析について、その理由（可能性や解釈）を書きすぎる必要はない。恣意的（操作的）な印象をもたれる懸念がある。がん登録のみに登録された症例を加えた解析やカプランマイヤー法による解析等を行った結果を淡々と記載することで良い。
- ・ マッチングモデルや対照の選び方で結果が変わるのは当たり前のこと。「引き続き検討が必要」という趣旨を記載するのが良い。
- ・ 現時点において、一貫した関係（線量・効果関係）が認められないことに異論はない。一方で、症例対照研究の一部の解析で有意な関係が見られたことを踏まえると、「今後」の部分については、記載しなくても良い。

< 2回目 >

- 1 日 時：令和7年6月5日（木）19:00～20:00
- 2 実施方法：ウェブ会議
- 3 出席者：部会員5名
- 4 概 要：

鈴木部会長より1回目のウェブ会議を踏まえ修正した部会まとめ（部会長案）を説明し、意見交換を行った。

< 部会員の主な意見等 >

- ・ 断定的な表現には配慮する必要がある一方で、検査5回目まで症例数が増え、新たな解析手法も追加した状況において、現行の検査の枠組みで今後一貫した明確な関連が見られるかというところはおそらく可能性は低いだろう。
- ・ そのため、解析自体が目的ではなく、解析結果に基づく判断が重要であることを強調したい。
- ・ 検査の任意性を担保するためにも、県民に対する情報周知が重要であり、県民が十分な情報に基づいた意思決定ができる形で検査を実施すべきことを強調したい。

以上